

# 基 調 講 演

今、大きく変わっている  
スノースポーツ教師の存在意義

児玉 栄一 氏

3月15日  
13:15～14:45  
ホテル安比グランド 竜ヶ森メイン会場

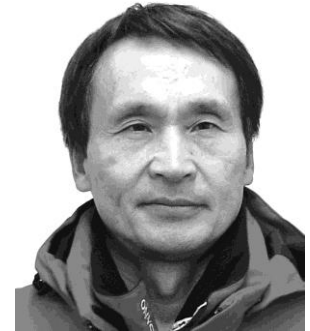
## 今、大きく変わっているスノースポーツ教師の存在意義

講演者

児玉 栄一(こだま えいいち)

<プロフィール>

1948年1月長野県下高井郡山ノ内町沓野美明で、児玉秋五郎・トモエの長男として生まれる。県立中野実業高等学校卒業後、慶応義塾大学通信教育学部入学。18歳でツアー旅行に参加しヨーロッパを視察。家業を継ぎながら地元で青年会長などを務めた。一方、冬場には志賀高原でスキー教師としての活動を開始した。



1972年と73年のシーズンをアメリカ合衆国ユタ州アルタスキー場で教師として働き、73年の4月アメリカスキー教師連盟の正教師資格を取得する。現地滞在中にブリガム・ヤング大学の入学資格取得。1974年5月から79年9月までの5年間、オーストリア・チロル州サン・クリストフにある国立スキー学校長でスキー界の世界的権威であるフランツ・ホップヒラー教授に師事。同校でスキー教師として働きながら、日本人として初めてオーストリア国家認定スキー教師、同雪山ガイド、同アルペントレーナーの三つの資格を取得。1985年、当時のリクルート社長である江副浩正氏に招かれ安比高原スキー場の開発と運営に携わりながら、安比スキースクールを創設し校長を務める。

世界40カ国が加盟する国際スキー教師連盟(ISIA)では、99年から4年にわたり副会長並びに技術委員長を務める。現在も技術委員会委員として活動。またインタースキー大会(世界スキー指導者会議)においては、1983年イタリア大会に日本代表デモンストレーターとして出場し、その後の全ての大会でコーチもしくは監督職を歴任、2003年スイス大会では日本代表団総括を、また2011年のオーストリア大会では日本代表チームの監督を務める。公益社団法人日本職業スキー教師協会では、専務理事・総務部長・教育普及部長を歴任し、現在は教育部長・技術及び国際委員長などを務める。テレビ番組「APPI SKI HOT SESSION」は1992年から6年間、その後「APPI スキー王国」は3年間、10月から3月までの6ヶ月間、毎週30分全国10局以上で放映され、東北の安比からスキーやスノーボードなどに関する最新情報を発信した。2002年10月、オーストリアスキー教程の翻訳など、スキーを通じてオーストリアと日本の友好に貢献した功績が認められオーストリア共和国より栄誉金章を受章する。2013年3月に志賀高原で開催された第37回全日本マスターズ志賀高原大会では事務局長を務めた。

著書;1982年実業之日本社刊オーストリアスキー教程「シュビンゲン」、1996年スキージャーナル社刊「新オーストリアスキー教程」、2007年実業之日本社刊「最新オーストリアスキー教程」の翻訳。それ以外に「雪上スキークリニック」山と溪谷社、「児玉栄一の基礎スキーテクニック」東京新聞出版局など著書多数。

## <講演概要>

近年、スマホやネットなどコミュニケーション技術の進歩は一層加速しており、このことがスノースポーツビジネスの展開においても大きな影響力をもつようになっている。例えばスキー学校に入ろうというスキーヤーは事前に相当量の予備知識や情報を得ることが可能で、だからこそ受け入れ側である我々は、そうした点をあらかじめ覚悟し、それを意識したサービスをしなければならなくなった。同時に、あらゆる情報が世の中に溢れているため、場合によってはスクールに入らなくともある程度の上達が可能になっているのも事実だ。こうなると、教師無用論が出てもおかしくないし、当然ながら教師の役割も大幅に変わることになる。以前であればスキーやスノーボードの技術、すなわち上達のコツだけを教えていけばよかった。しかし現在では、お客様へのサービスとして何を提供するか、またどのようにお客様と共に楽しみながら、スノースポーツを身に付けるかを考えなければ、本当の意味でお客様の満足度を高めることは不可能だ。

実際の指導現場でよく見られる光景であるが、メソッドに頼り過ぎるあまり、お客様の個性や目標などを反映できず、受講するが側にとってはつまらないレッスンに終始している教師も少なくない。これはいわゆる『分習法(部分だけを切り取ってそれを積み重ねていく学び方)』であり、理想は『全習法(目標や、なぜそれが必要なのかを明確にしトータルトレーニングとしての学び方)』であるべきだ。例えば、横滑り一つとってみても、それがこの先どう役立つ技術なのかを提示できなければ、お客様にとってはただ退屈なだけの練習になってしまう。

今、本当に求められるスノースポーツ教師像とは、これらのことを常に意識し、スポーツ指導とサービスを同列で展開できる人材でなくてはならない。そしてその努力こそがスノースポーツの活性化に直結するのである。



日本職業スキー教師協会の講習会にて講演を行っている児玉栄一氏